

令和3年度 市議会意見交換会「議員と語っちゃオ!!」 記録

日 時： 令和3年11月15日(月) ①13:30～、②19:00～
11月24日(水) ③13:30～、④19:00～

の各2時間

会 場： 諏訪市役所 5階 大会議室

参加者数： ①6名 ②16名 ③11名 ④12名 合計 延べ45名
(傍聴者1名含む)

実施方法： 各回テーマでグループ分けし、グループごとに意見交換。
テーマは①・④を(1)防災力の向上「安心安全なまちづくり」
(2)産業における諏訪市の展望
②・③を(1)教育・保育について
(2)市民生活について
(3)子育てについて としました。

いただいた主なご意見：

(1) 防災力の向上「安心安全なまちづくり」

11月15日(月)① (1)－1

議員：◎進行 小泉正幸・○書記 高木智子・廻本多都子 小山博子 市民の方3名

- ・防災力向上には市民意識の向上、官民の協力が大切。
- ・分散避難が大切。避難所ではキャパが足りない。広報、チラシが市から入ってきたのでこれを基に分散避難について地区で説明できると思った。
- ・今年の夏の災害の時に地区で初めて避難所の開設をした。上川が氾濫したら自力避難ができない人がいるのか民生委員と相談して確認作業をした。
- ・かつての市長が「すぐには市は駆け付けられない」と言っていたのを聞いて区が何とかしなくてはならない、初動は区がやらなくてはいけないんだと思った。
- ・本人の意思で申告してもらった災害時に、手助けが欲しい人の意思を確認して「支えあいマップ」を作った。
- ・災害が起きた時の対応について区に丸投げしている感じがある。区に任せたいならそういう方針をはっきりと示してほしい。
- ・市の招集で各区の担当者が一堂に会して防災についての会議を開催し、情報交換や要望を伝えることはしていない。必要だと思う。
- ・市から平時のアプローチはない。
- ・8月の災害時、湖岸通りで下諏訪側からの車がかなりのスピードで入ってきて土嚢を超えて水が入ってきた。早めの通行規制を出してほしい。
- ・市が全部の状況は把握できない。地元の人が市を待たずにすぐ動くことが必要と思った。
- ・文化センターが避難所になったがホワイエの床にブルーシートを敷いてあるだ

けだった。

- ・文化センターに1人で避難してきたくないと思った。ゴムシートの上にブルーシート敷くとずいぶん違うと思う。
- ・消防団が寝ないで警戒をしてくれた。
- ・土嚢が東バル跡地に用意してあることを区や消防団が知らなかった。
- ・消防団は地域の安心安全のキーマン。しかし操法大会等、防災のこと以外の事のの仕事が多くとても負担に感じている。何かしらの手を打っていかないと団員がいなくなってしまう。本来の業務以外の負担が多くなって、団員がいなくなるとは本末転倒ではないか。
- ・災害が起きた時、区と一緒にやっていく姿勢、動きをするべき。区の悩みをくみ上げる。
- ・区と市の役割をはっきりさせることが大切だと思う。

11月15日(月)① (1)－2

議員：◎進行 牛山正・○書記 小松孝一郎・横山真・森山博美・岩波万佐巳
市民の方3名

◎避難訓練等の事前対応

- ・避難訓練は毎年行われているが、形骸化しているのではないか。
区単独で連携がない。決まりきったことしかしていない。
- ・訓練の結果、災害時の対応など反省やそのフィードバックがほしい、知りたい。

◎災害に対する備え

- ・各地区の防災備品のリストを公開してほしい。
- ・防災資機材補助金の補助率をあげてほしい。
- ・AEDを誰でも使えるように、講習をもっと行ってほしい。
- ・8月豪雨ではトイレが使えなかった。簡易トイレ、携帯トイレを備えてほしい。
- ・今回の水害では土嚢が不足した。地区にもっと配布してほしい。
また、公園や学校の砂場の砂を利用できる体制を作してほしい。

◎避難所について

- ・高齢者、女性、子持ち世帯の考えや意見を取り入れてほしい。
- ・水害や地震など災害の種類によって避難所の考え方が異なる。明確にしてほしい。
- ・障がいを持たれている方や高齢者は避難が大変。避難しても落ち着かない、居心地が悪い。
- ・地区避難所開設時の区民への情報伝達に苦労した。アドバイスがほしい。
- ・一次避難所、広域避難所などへの誘導方法についてアドバイスがほしい。

◎内水氾濫対応について

- ・水害となる場所はほぼ決まっている。事前対策や早い対応ができないのか。

事前に地域の現地調査を行ってほしい。

- ・ 水害になると交通網が確保できない。通行止めの通知が遅い、または無い。
- ・ 排水ポンプの操作について、8月豪雨の検証をしてほしい。
マニュアル化してほしい。

◎土石流対応について

- ・ 被害場所や通行止め箇所、交通状況の情報が入ってこなくて、不便かつ混乱した。適切な場所に立て札があれば良かった。高校生や外国人が困っていた。
- ・ 土石流の危険個所の事前通知、雨量等を都度情報提供すれば被害は防げる。

◎高齢者、障がいを持たれている方等の弱者対応

- ・ 区役員だけで安否確認することは困難。電話だけではうまくいかない。
- ・ ひとり暮らしなど情報伝達、避難誘導が難しい。
- ・ 公にしたがらない人がいる。

◎情報伝達について

- ・ 適格な情報がほしい。
- ・ 防災無線が聞こえづらい。防災ラジオの復活をしてほしい。

◎その他

- ・ 災害後に状況や今後の対応の説明がほしい。
- ・ 過去の災害履歴を知りたい。

11月24日(水)④ (1)

議員：◎進行 小泉正幸・○書記 森山博美・廻本多都子 市民の方5名

◎情報について

- ・ 8月14日・15日の水害を受けて、地区からどこへどんな情報を伝えたらよいのか。
- ・ 区内放送は、地域により聞き取りにくい。
- ・ 市内の被災情報が取れない。県や市からの情報提供がない。
→消防団に情報をもらった。
- ・ 下水道の流入水の節水の放送は下流部の諏訪市では放送が流れている中、上流部は洗車をするぐらい排水の流入を気にしていなかった。
→6市町村で情報の共有と協定など。
→流入下水道に弁を付けるぐらいの事もやってほしい。
- ・ 交通規制を早くしてほしい。
- ・ 通行できる道路の情報がない。

◎ハザードマップ

- ・ マップに今年水のついた所の落とし込みをやってもらいたい。

◎樋門・水門の管理について

- ・平成 18 年の水害から水門ができた。水門を閉めポンプの作動を行うのはだれの指示？
- ・大和区では、区長に任せている。
- ・田の樋門の開閉、閉め方、誰が判断？ポンプがないと川が溢れる。
- ・訓練やガイドラインがない。初めての事だった。訓練など必要。

◎避難所について

- ・広域避難所と一次避難所の扱いはどうなっているのか。
- ・広域避難所の収容人数と地域住民の人数は？
- ・一次避難所開設について、危機管理室のメールの一番最後に来ていた。被害が無いところには避難所開設せず。知らせなかった。
→区民に不安をあおらない為。

◎ハード面

- ・諏訪の橋の幅が狭い。緊急車両が通れないのではないかな？
地震時に橋が落ちたときに市は分断され、緊急車両はどこから来るのか？
→広域的に整備が必要。
- ・下水道がストップ→他市町村への働きかけは？
- ・下水管雨水流入は防げる被害である。早く検証を行い市民へフィードバックを。
- ・側溝・用水路等の整備で防げる氾濫もある。

(2) 産業における諏訪市の展望

11月24日(水)④ (2)

議員：◎進行 牛山正・○書記 小松孝一郎・岩波万佐巳・小山博子

市民の方7名

◎人口増加のために

- ・人口が減っている。仕事先が増え、人口の増える市であってほしい。
- ・女性の働きやすい職場や環境作りが大切。
- ・帰ってきてもらうために子どもにとって魅力あるまち・大人が必要。
- ・子どもの夢や意見を具体化する。例えば、子ども議会。

◎働く場所づくり、特に製造業

- ・製造業が諏訪市から出て行ってしまわないのはなぜか。
他の地域に優遇策があるのではないかな。
- ・個々の企業は得意技術があり優秀。企業連携が重要。
テーマ選定が課題。ニーズ+技術が大事。
トライアスロンの順位や選手位置の GPS 装置は圏域企業で開発した。
トライアスロン推進には70以上の企業家が集まっている。核になり得る。

◎戦略的なまちづくり

- ・ 駅周辺、特に西口側の戦略的な開発が必要。文化センター、東バル跡地を含む。
- ・ 諏訪湖などセールスポイントの再理解とその活用が必要。
トライアスロンに合わせ諏訪湖の水を使ったアオコソーダやビールを試作した。水利権や許可申請が大変。
- ・ ノーカーデーを設定し歩けるまち、通勤バイパスなどを活用し諏訪湖から上社、茅野に行くサイクリングロードを整備してほしい。
- ・ 河川や舟を使ったまちづくりを検討してほしい。
- ・ 東バル跡地がどうなるのか、国道バイパスが必要なのか。

◎温泉や諏訪市のランドマーク

- ・ 諏訪市のまちづくりに温泉をもっと活用してほしい。
- ・ 石彫公園、湖明館通り、並木通りに繋がる一角を関連付けて開発してほしい。
例えば足湯。

◎市議会の役目

- ・ 現在、市議会として何を目玉に経済の活性化を目指しているか。議会一丸と
なったの目標はあるのか。

◎その他

- ・ 城北小の跡地について、インターナショナルスクールやテレワークの拠点、
シェアハウスなどを検討してほしい

(1) 教育・保育について

11月15日(月)② (1)

議員：◎進行 牛山智明・○書記 藤森靖明・廻本多都子・小松孝一郎

市民の方6名

◎コロナ禍における保育

- ・ 保育園のコロナ対策として保育士がおもちゃの消毒をしているなど雑用が多い
～子供と向き合えるのか→消毒機材の導入は

◎コロナ禍における教育

- ・ 行事の制約が過度過ぎる。
- ・ 中学の部活練習時間について、共に過ごす時間の大切さを強調。
- ・ 子供たち、先生たちについて2学期制のメリット、デメリットは。
- ・ コロナ禍における制約、テレビで放映されない報道、マスクは必要かどうか？
- ・ 教育現場においてコロナ対応で得たもの。
- ・ 行政と教育現場の交流は。

◎小中一貫校

- ・ 地域の説明会、他校の視察、具体的な案はどうか？

- ・評価がネガティブな場合、二つを一つにする。
- ・物理的な統合を一つ、中身をどうしていくか。
- ・数合わせ、予算で合併はいけない。あるものをなくすのは地域の衰退を表す。
- ・統廃合を進め、母校がなくなるのは寂しい。
- ・廃校をコワーキングスペースへ。
- ・城北小学校について、裏庭のアスレチック、校舎の活用など市の方針は。
- ・小中一貫校には粘り強く。
- ・よりよくなるイメージが進んでいる。
- ・夏休みに中学生が小学生に教える。
- ・教科担任制くらいしかわからない。
- ・小中一貫校の良さが実感できない。

◎小1の壁

- ・現状と課題、相談できない。ダイバーシティ、その活動ができているか？
- ・見えない障害、自宅がわからない。

◎学校教育について

- ・学校の重要行事での国旗の掲揚について学校によって違うのか？
- ・制服について清陵、二葉のように中学校も自由で良いのではないか。
子供が選べる自由。
- ・教員の指導力の向上、家庭、地域の教育力。
- ・学校でジェンダーも含め、公平に場を設ける。
- ・高等教育のレベル、現状と向上策。
- ・郷土に関する教育はどうなっているか？郷土愛を育む教育。
- ・目に見えない障害（発達障害児）を持つ子に対してどうか？
- ・学校教育は学校の先生が主にあたる。指導力を高める。サポートは必要。
- ・ボランティア的な流れによって課題が多く出てきている。
- ・教育機会の均等平等について。
- ・学校～保護者～地域、連携の悪さ。

◎地域コミュニティ

- ・地域コミュニティースクールの形骸化。
- ・キョロブラ運動の指導の様子、当初の目的の確認、何が為が変わってきている。
- ・中洲小学校運営会、子供を取り巻く周りの環境、保護者も地域の大人。
- ・子育て世代が地域と携わっていないのではないか？
- ・意識の低下、地域全体で育てていくことはできているか？
- ・ボランティアでカリンの木を育てる。
- ・地域の爺ちゃん婆ちゃんの話の聞くことができる。
- ・グローバル人材の輩出、ローカル人材、共通言語がなくなっている。
- ・郷土愛について、長く住んでいないものからすると難しい。
- ・ここに住んでいるので比べようがない。諏訪に興味を持たせること。

- ・地域の良さを醸成する教育。
- ・公平性の担保。
- ・学校と地域ボランティア活動の区分けをしていく。

◎その他

- ・ヤングケアラーについて。
- ・保護者が子供の教育に目を向けるべき。
- ・親の関わり方。
- ・地方主権。

11月24日(水)③ (1)－1

議員：◎進行 井上登・○書記 伊藤浩平・森山博美・小泉正幸 市民の方4名

- ・小中一貫教育での新しい校舎の建設。
- ・上諏訪小学校への新しい通学路の道路整備。
- ・教育機会確保法に基づく市と民間との連絡協議会の早期設置。
- ・フリースクールなどによる公共施設利用時の減額措置。
- ・市の不登校施策の方向性をしっかり示してほしい。
- ・フリースクールへの支援。
- ・不登校児童・生徒への金銭的支援。
- ・信州型コミュニティスクールが当初の理念と変わってはいないか。
- ・ものづくり教育に「気づき」「困った時の対策を考える」など答えが一つでないことを教える過程を取り入れてほしい。
- ・小学校の統合に伴い保育園も統合されるのでは。小さな保育園もいいところがある。
- ・貧困家庭が本当に把握されているのか。こども食堂、フードバンクがその方々に行き届いているのか。
- ・兄弟は同じ保育園に入れてほしい。
- ・タブレットなどの子どもへの健康面での影響が議論されたのか、導入の必要性に疑問。
- ・不登校児童にタブレットが届いていない。
- ・GIGAスクールで学校、先生ごとの個人差での教育の不平等は発生しないか。
- ・現在の教育システム自体が子どもの権利を脅かし、いじめ等が発生する要因になっていないか（制服、成績評価、順位付け）。
- ・学校での感染症対策が子どもの成長を阻害していないか、精神的影響を与えていないか。
- ・児童扶養手当を未婚の親子にも支給してほしい。
- ・市の組織を横断した司令塔がないのでは。

11月24日(水)③ (1)－2

議員：◎進行 藤森靖明・○書記 岩波万佐巳・小松孝一郎・牛山正 市民の方4名

◎中学校の部活について

- ・中学生になる子ども(兄)がバレーボールをやりたいと言っていたが学区内の中学にはバレーボール部がなかった。市外に住所を移してバレーボールを続けた。妹はバレーボールを続けたかったがやはりバレーボール部がなく、地区を離れるのは嫌だと違う部に入った。子どもが望む部活ができるようにしてほしい。
- ・諏訪市内でも部活だけ他校と一緒ににはできないと学校に言われた。
- ・市民文化部も部員が少ない。市内で一緒にできないか？
- ・子どもが少ないから、部活ができない現状。
- ・一緒にできない理由はないと思う。
- ・部活を見ることは先生の過重労働になっているようだ。

◎小中一貫校について

- ・他の地域はどうして一緒に進めないのか、不公平ではないか。
- ・他の地域はどうなっているのか？一緒に進めるべきではないか。
一緒にやれないのは財政面か、人員か？
- ・上諏訪小・中学校は統廃合であって一貫校ではない。
- ・小中一貫校の内容が不透明。
- ・統廃合が必ずしもいいわけではない。小さな学校でもいけないことはない。
- ・併用型と分離型があるのだから、分離型でもいい。
- ・先生の教え方で子どもの伸びが違う。英語・算数の専科にはいいこと。
- ・順次進めていくことは仕方ないことと思う。
- ・学校は地域にあった方がいい。
- ・子どもが少なくなってきた状況で、地域に子どもがいないと小中学校は成り立たない。統廃合を考えるのは仕方がないこと。
- ・小中一貫校のことはよくわからない。

◎GIGA スクールについて

- ・心配することが多い。電磁波・ブルーライトによる体への影響、脳への影響、コミュニケーション力の低下、YouTubeのトラブル、先生によって取り扱い方が違う。
- ・人と人で教えてもらった方がいい。
- ・コンピューターにお金をかけるのではなく、施設・人にお金を使ってもらいたい。
- ・パソコンの授業はいかがなものか？
- ・危険性を知らされていない。
- ・心配していることはよくわかるが、学んでいかないと世の中で通じなくなってしまう。
- ・パソコンばかりやっていたはいけませんが、対応できるようにならなくてはいけない。
- ・カリキュラムの選択肢がない。自由度がない。行政から押し付けられている。

◎地域と子どもの関わりについて

- ・地域と子どもの関わりが減っている。
- ・高齢の親と独り者の子ども世帯が増えている。地域のことを親がやっていたため、亡くなってしまうと子どもが孤立してしまう。
- ・地域で子どもを育てるのなら、学校の統廃合はしなくてもいい。

◎コロナについて

- ・コロナの被害について知らされていないことがある。
ワクチン接種をしなかった人への差別もある。(ワクチンパスポート等)
ワクチン接種は強制ではないのにやるのが当たり前のようになっている。
- ・治験が終わっていないのに子どもに接種しているのはいかがなものか？
- ・ワクチン接種をする・しないの判断は、子どもの意志ではなく親が判断しているのではないか。
- ・国のガイドラインでは子どものマスクは強制ではないが、学校ではマスクをしていないと差別がある。
- ・マスクをしている事での弊害もある(耳が痛い等)

◎その他

- ・市の財政が逼迫していると思う。そのため学校・保育園の統廃合に繋がっているのではないか？合併した方がいい。

(2) 市民生活について

11月15日(月)② (2)-1

議員：◎進行 伊藤浩平・○書記 近藤一美・牛山正 市民の方4名

◎環境について

- ・諏訪湖の浄化を進めてほしい。
- ・河川環境の整備が必要だ。
- ・新川沿いの歩道が狭いので自転車通学の学生が危険だ。
- ・野良猫が増加している、空き家の増加、無責任な餌やりが繁殖に繋がっている。
- ・家電製品等の処分について回収頻度を増やしてほしい。
- ・環境を守る人材が少なくなっている所以对策が必要だ。

◎福祉・高齢社会について

- ・高齢者の増加に介護施設が追い付いていない。
- ・本当に福祉が必要な方に手が届いていない。
- ・障がい者の雇用が厳しい。
- ・障がい者のスポーツをする場所が少ない。
- ・一人暮らしの方が増加する中どのようにしていけば良いのか。
- ・今まであったサロンがなくなりそうで困っている。
- ・フレイル予防の指導が欲しい。

- ・高齢者でも働ける場所が欲しい。
- ・外に出かける際の足の確保が問題だ。
- ・高齢者の賃貸住宅の入居は、住宅セーフティネット法によりたやすいが、家賃の支払、事故、長期の病気、死亡等の際の対応が難しい。

◎その他

- ・新たに引っ越しをしてきた方で、区の組織に入らない人がいる。
- ・赤い羽根の共同募金等が、区の役員に集金義務が課せられているかの印象がある。

11月15日(月)② (2)－2

議員：◎進行 森山博美・○書記 小山博子・小泉正幸 市民の方4名

- ・老人福祉センターが廃止になり、他の施設を利用するよう言われているが、予約方法が違い、年間通して予約できない。講師を招いて行う行事は予約が先にできないと、講師の確保ができない。2カ月前の予約だと講師の確保が難しく開催できなくなる。
- ・老々介護の心配。
- ・共同浴場が閉鎖されるところがある。一般へ開放はできないのか。
- ・ホテルは多いが、セットとなる娯楽施設がない。
- ・若者の遊び場がない。
- ・諏訪市の環境は良いが、観光のアピールがうまくいっていない。
- ・国道20号線の踏切の渋滞が困る。(時間帯による)
- ・観光の町なのに道路が悪い。
- ・スマートインターが設置されるが、経済的なメリットはあるのか。
- ・空き家を探しているが、選択肢が少ない。公表されていない物件も多いように思う。
- ・防災無線が聞こえない。外国籍の方へ「防災メール」の登録方法が周知されていない。外国籍の方はメールで情報をもらえば、アプリの翻訳機能を利用し、日本語を母国語に変換できるので、周知をしてほしい。

11月24日(水)③ (2)、(3)

議員：◎進行 近藤一美・○書記 牛山智明・廻本多都子・小山博子

市民の方2名

◎市民生活について

- ・諏訪の空に爆音で低空飛行しているC130輸送機がある。
- ・佐久、木曽も異様な飛行をしていると聞く。
- ・自宅の瓦屋根にクジラが居るような光景。
- ・オスプレイの必要性が何か知りたい。
- ・国に必要性、コースを問い合わせても返答がない。航空自衛隊に問い合わせ

も返答がない。

- ・ 諏訪地方は、飛行訓練コースになっているのではないか。
- ・ 飛行ルートの変更を議員から要望して欲しい。
- ・ オスプレイのことに議員に関心を持ってもらいたい。
- ・ 沖縄がこんな騒音の中で生活していることがわかった。
- ・ 高齢者の見守りをしているが、余計なお世話と言われた。
- ・ 人によるところがある。民生委員からお願いされ見守る役をしている。
- ・ 出来る時に見守りをすれば良い。コミュニケーション不足。
- ・ 女性議員を40%にしてほしい。請願書を出したい。諏訪を諏訪市から変えてほしい
- ・ 無条件で40%議員になるよう総務省に提案する。ノルウェーは女性国会議員48%、比例代表制にして40%確保したい。
- ・ 国に縛られるのではなく地方主体に変える。
- ・ 学校の制服について、親に任せた方が良い。
- ・ 高校生は自由になっている。中学生も親に任せて自由にすべき。議会で審議してほしい。
- ・ 着る自由、子どもの自由、親の自由、制服、私服OK。

◎子育てについて

- ・ 子どもは関心があり、ご飯を食べさせる集まりの場所。反面行きづらい。対応の仕方が必要。コロナ禍で集まりは大事。
- ・ 地藏寺の信州子ども食堂が実施されている。
- ・ 子ども食堂は塩尻、松本では実施されてないか？
- ・ 単独でも収入のない子供が生きられる環境にあるのか。母親は仕事で子どもを病気で預け、中学生の性教育、子どものためにガムシャラに頑張った。
- ・ 一歩間違えば、不幸と隣り合わせ、幸せいっぱい育てられない。
- ・ 助産師は辛いことをよくやっている。

(3) 子育て支援について

11月15日(月)②(3)

議員：◎進行 岩波万佐巳・○書記 井上登 市民の方2名

- ・ 発達特性について、障がいではなく特性と捉え、周囲が支援する環境が大切。
- ・ 多様性を尊重し、社会に出た時に企業にも理解される社会に。
- ・ 外国籍生徒や親が理解できるように紙ベースではなくメールで。
- ・ 不登校生徒の学びの確保。
- ・ 貧困家庭へのアウトリーチな支援を。
- ・ 専門家の支援が大事。
- ・ コロナ禍、少子化の中で、一人一人がどう育っていくのか、諏訪で育ってよかったと思える住みやすい社会を作っていく。
- ・ 現状、課題を話す場を作ってほしい。